沖縄の海洋・沿岸の環境保全とウミガメ保護.
一般社団法人 沖縄沿海保全同友会　（非営利型）

活動の場所	沖縄県

活動目的

私たちは、沖縄県の海洋環境を健全に保ち、沖縄で産卵する絶滅危惧種のウミガメの保護活動をしている。海水温の上昇やマリンレジャー客の増加で、珊瑚は危機的状況にあり、わずかに残る自然な浜は次々と開発され、レジャー施設、ホテル所有の人工浜などが急速に増えている。海洋ゴミはビーチ、水中を問わず激増しており、海洋生物たちの種の保存の脅威となっている。何より、県民にとってはふるさとの風景をこれ以上失わないために、日本各地同様、沖縄県の沿岸も観光集客の方法を"エコツーリズム"へと変えていかなくてはならない。沖縄の海や浜を守ることは、ウミガメをはじめとする海の生態系を守り、多様性を次世代に引き継ぐ意義がある。
海底にひしめくゴーストネットの存在は、目に見えぬ甚大な環境破壊の脅威だ。私たちは、まずその巨大なゴミを回収し、海のいのちを守る行動を起こす。ゴーストギア、ネットの存在や除去作業の工程は周囲に発信し、情報共有を図る。奇跡のように美しい自然に恵まれた沖縄県、その自然保護と観光業、漁業の両立、人と他の生き物が共に生きるとはどういうことなのか、なぜ必要なのか、皆で未来を変えていくきっかけとしたい。

OCPA 沖縄沿岸保全同友会には3つの大きな部門があり、多方面からのアプローチで沿岸と海中の（主にプラスチック素材）ごみを清掃し、生き物の保護をしている。　1）ビーチの清掃と保全（読谷ビーチクリーンネットワーク）、2）ウミガメ保護（ちゅらむら）、3）海中のゴーストギア・ゴミ清掃（OCPA）　環境に優しい持続可能なエコツーリズムの構築には、残すべき美しい自然と生き物がまだ存在することが前提条件。まずは環境汚染から自然を守る活動に努め、現状と活動内容をできるだけ多くの人々に発信し環境保護意識の共有・教育を目指している。
海洋生物→絶滅危惧種でもあるウミガメが産卵する自然浜が沖縄にはまだ多くある。産卵シーズンは、メンバー全員で手分けをし、全長60ｋｍの中部の浜を毎日パトロールし、清掃、産卵・孵化を保護。2024年度は24の産卵巣を保護し約2,000の卵の孵化を確認した。海洋環境→海中プラごみは海を汚染し海洋生物の命を奪う。月に二度以上、地元の方と共にビーチクリーンを企画実行し、またダイバー有志による海中のゴーストギアを清掃も行っている。

PRしたいポイント

今ある美しい海の環境がなくては沖縄のエコツーリズムは成り立たない。沖縄県には、地球上の海洋の0.2％しかない珊瑚礁と絶滅危惧種のウミガメ7種のうち3種が産卵に戻ってくる浜がある。観光と開発のバランスを取り両立させ、生物多様性の宝庫であるこの場所を次世代に引き継ぎたい。

活動効果、今後の展開　等

〇2023年度のセミナー33回（小・中・高・大学生、企業、米軍基地内学校など）、ビーチクリーン24回、参加者833名
〇ウミガメ産卵上陸確認　84回、産卵卵数　1,265　　2024年度はより多くのセミナー、ビーチクリーン参加者あり、また海中のクリーン作業も進行中。ウミガメ保護活動についてもボランティアスタッフが増え、安全監視・保護ビーチ範囲を拡大している。賛同者が確実に増えてきていることを実感している。

Okinawa Coastal Protection Alliance　OCPA　（オクパ）沖縄沿海保全同友会
https://okinawaprotect.org/